



Title	名桜大学におけるグローバルヘルスの教育とその実践
Author(s)	藤井, まい
Citation	目で見えるWHO. 2026, 96, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105788
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

名桜大学におけるグローバルヘルスの教育とその実践



名桜大学看護学科総合看護領域(国際看護)領域長
言語学習センター(LLC)センター長

藤井 まい(ふじい まい)

保健師。国際NGO(米国)、JICA(マレーシア・ラオス・スーダン)、緊急援助隊調査(フィリピン・ネパール)、WHO(スイス、インド)等で勤務。保健学博士

名桜大学は、1994年に沖縄県と北部12市町村の支援により名護市に開学した公立大学です。高台に位置するキャンパスからは、美しい海を一望できます。地域社会の住民との交流も盛んです。本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げ、中南米やアジアをはじめとする海外17カ国・1地域の50大学と交流協定を締結し国際化に力を入れています。

名桜大学には国際学部と人間健康学部2学部があります。今回はその中で、人間健康学部看護学科について紹介します。

看護学科・看護学研究科(国際看護)

看護学科では、2010年に「国際看護学」を開講し、2013年には「国際看護学Ⅱ」として海外研修を開始しました。現在は「グローバルナースング1/2/3」の3科目としてシリーズ化した講義や演習を受けることができます。他の学部からの履修も可能です。

グローバルナースング1は、看護学科の学生は必修科目で、国際保健についての基本的な内容をグループワークも取り入れながら学びます。今年度は、学内の留学生に患者役を担ってもらい、ロールプレイを通して外国籍の同僚や患者が身近にいる医療現場を具体的にイメージする練習をしました。グローバルナースング2では、日本や現地NGOの協力を得て希望に応じて海外研修、国内研修を

実施します。病院が外国人患者を受け入れる環境を整えるため、外国人患者受入体制認証制度(JMIP:ジェイミップ)があり、その制度で認証され外国人診療に力を入れている病院の国際診療部で実際の外国人対応やスタッフの働き方を学びます。海外研修は、近年はタイ北西部に行っています。病院での見学実習やタイの看護大学との交流のほか、農村部でのホームステイで異文化の中で人々と関わったり在宅看護の現場訪問も行っています。学生の皆さんが自主的に学べるよう、毎年学生の希望を聞いてから、それをもとにプログラムを組み立てています。以下は昨年の例です(表1)。

グローバルナースング3では、基礎的な国際保健の学習を踏まえ、さらに大学院へ進学したい学生や将来国際的な現場で働きたい人向けに、具体的な分野の学びを深めたり、他国の学生とオンラインで繋ぎ学んだりします。今年度はプラネタリーヘルスやユニバーサルヘルスカバレッジについて多く取り上げました。

看護学科は看護実習が多く組み込まれていますが、国際保健看護の実習は、4年次必修の「総合実習」の中に位置づけられています。「国際看護」コースでは沖縄の国際性を活かしてOISTやJICAでの実習を行います。OISTは教員や学生の多くが外国籍で公用語は英語です。

表1 昨年の活動などを参考に学生にやりたいことを決めてもらいます

希望順	テーマ	内容
1位	タイからラオスへの陸路入国:ラオスの病院、保健センター見学	2国間の違いや医療施設の違いを学ぶ
2位	村落の住民家庭でのホームステイ	現地の人の生活に入り宿泊を通して体験する
3位	タイの病院見学(地域/郡・公立/私立)	各行政レベルの医療機関の役割と特徴を知る
4位	HIV/AIDS 当事者との交流	国際的視点の習得に繋げる
5位	LGBTQ当事者との交流	カミングアウトの文化的差異、多様性の理解と尊重する姿勢を身に付ける
6位	タイ日文化交流会	タイの人々へ日本を伝える懸け橋になる
7位	性教育(小学校高学年/中学)	異文化での教育提供の機会を経て、タイの文化や価値観の学び、性教育の重要性を理解する
8位	在宅療養者の家庭訪問	村落保健ボランティアVHVと村落へ訪問し、村落での住民の生活やVHVの活動について学ぶ
9位	薬物依存者支援団体の視察	社会問題の支援の実態を学ぶ
10位	ラオス人越境労働者との交流	日本では学びにくい生活実態や健康課題の理解につなげ、看護ケアを国際的な視野へ広げる
11位	タイのお菓子づくり体験	現地の人々と活動を通して食文化がどのように栄養面や地域の気候に適応し発展してきたかを学ぶ
12位	現地大学生との交流	同世代の他国の看護学生との触れ合いで相互の国際看護への意識を高める



写真1 名桜大学のパンフレット

母国を離れて学ぶ学生を支える保健センターやクリニックを拠点として健康支援について学びます。また、JICA 沖縄は年間約 500 人の外国人研修員を受け入れており、その多くが短期滞在者となります。常勤の看護師や研修員との交流を通し、健康を広い視野で捉えていけるように工夫しています。

卒業研究として国際看護分野を専攻する学生も多く、内容も多彩です。テーマは、異文化・多様性への対応や在日外国人の支援、制度に関する考察（医療通訳や認証制度等）、途上国の課題と解決法に関するテーマのほか、近年では COVID-19 のパンデミック対応の国際政策比較等です。今年度は JICA の語学講師へのインタビューを行いました。

看護学研究科看護学専攻（大学院）でも国際保健に関するテーマを専攻することができます。国内外の医療・保健・看護課題を多角的に理解し、多文化社会に対応できる人材や研究者の育成を目指しています。

そのほかの学習環境

様々な言語に一定程度慣れておくことも、国際保健を学んでいくうえでは大切です。名桜大学には、学生チューターが名桜大学生の外国語学習を多面的・多角的にサポートする、言語学習センター（LLC: Language Learning Center）があります。現在 30 名のチューターが所属し、6 言語に対応しています（英語、

中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、日本語）。1 回 30 分のレッスンでは、授業や言語に関する疑問をチューターと一緒に学ぶことができ、各種検定対策や日常会話（フリートーク）にも対応しています。前述以外の言語もセンター内に教材を揃えて貸し出ししたり、自主的に学べるように環境を整えています。

市民講座などを多く行う、看護実践センターでも、国際保健に関するテーマ、特に近年では在日外国人の健康支援に関する内容での講演・講義を行っています。今年度はインターナショナルスクールの保健室で勤務する養護教諭、外国人観光客の来場も多い新設テーマパーク「ジャングリア」の保健室（エイドセクション）の看護師による講演を行いました。

大学生活の中で徐々に国際性を培い、シリーズ化されたグローバルヘルスを学んでみませんか。もちろん大学院で国際保健・国際看護を学びたい人も大歓迎です。

※本記事は 2026 年 1 月時点の情報に基づいており、所属等は執筆時点のものです。



写真2 タイの村落でのホームステイの様子



写真3 LLC（語学センター）でのチュータリングの様子